

THE INTERVIEW

大学等コアリション地域ゼロカーボンワーキンググループ（WG）

インタビューシリーズ



ものづくりのDNAで未来を創る

愛知工業大学の地域密着型のカーボンニュートラルへの挑戦

愛知工業大学

日時：2024年12月18日（水）

場所：愛知工業大学 八草キャンパス

インタビュー：

愛知工業大学 地域連携・SDGs推進本部
ゼロカーボン推進室長／経営学部 経営学科
教授 羽田 裕 先生

研究支援本部 事務長／
地域連携・SDGs推進本部 事務長／
総合技術研究所 課長 井沢 清人 様

地域連携・SDGs推進本部 課長補佐 石原弘士 様

取材：地域ゼロカーボンWG事務局（IGES：石川、前田、矢野）

はじめに

2024年10月に広島大学で開催された「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム」にて、愛知工業大学の地域連携・SDGs推進本部 ゼロカーボン推進室長の羽田 裕 先生から「ゼロカーボン社会の実現に向けて本学の果たす役割と取り組み」について発表いただきました。この発表の中で、様々な分野の第一線の専門家を招へいして、最先端の動向や現状をご講演いただく、全15回のカーボンニュートラルに関する「特別講義」を企画されていることを伺いました。この「特別講義」は学生の関心も高く、100名の定員に対し165名の応募があったとのこと。これは是非後日談を聞いてみたいと思い、インタビューをお願いしました。

また、愛知工業大学は大学創立90周年となる2049年にゼロカーボンを達成することを宣言され、これに向けて、「ゼロカーボンキャンパスの実現」「ゼロカーボン人材育成」「地域連携型・先端型研究の促進」「（東海地域における）社会地域貢献活動」の4本の柱からなるロードマップを作成されています。インタビューでは、こうした地域に根差した人材育成と、「ゼロカーボン」をキーワードに学内外を繋ぎ、連携による地域脱炭素にあたられている具体例についても教えていただきました。

国立大学との違いを明確にし、強みを活かして地域に貢献する

- 今日はインタビューをお受けいただき、ありがとうございます。まずは、広島大学「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム」（以下フォーラム）参加の経緯や、ご感想など教えていただけますか？

羽田先生（以下敬称略）：元々は私がフォーラムに参加する前に、石原さんが現地視察（2024年2月、広島大学によるキャンパス及び地域脱炭素化の取組の視察）に参加したのがきっかけでした。やはりゼロカーボンの取組は、教職員が連携して進めていくことが大事だと思っています。井沢さんも同じ考えで、やはり学内で自分たちの取組だけを見ていると、今どのレベルにいるかわからないですし、他大学の取組も知った上でやるのと、知らないままでやるのは違うということで、とにかく外に出ていろいろな大学を見た方がいいと言ってくださったんですよね。目的としては、他大学の取組がどんな状況かということを見てくること、また横のつながりをつくることでした。

石原： 広島大学様は一つの学園都市であり、ものすごいモデルケースだと思う反面、広島県や東広島市と大学の距離感は、私立大学のそれとは少し違う印象を受けました。改正地球温暖化対策推進法や環境配慮促進法に基づき、事業者の責務として、温室効果ガス排出量の削減等のための措置を講ずるよう努めることとされています。広島大学様では、積極的な情報公開や取組の共有化を行っていただいております。見学会の後日、広島大学の職員の方にお話を伺って、プラクティカルな部分をいろいろ教えていただきました。施設見学では、キャンパス建物の ZEB 化に向けた取組も大変勉強になりました。



インタビューにご協力いただいたみなさま（左から羽田先生、石原様、井沢様）

- 国立大学と私立大学では、いろいろと違いがあるのでしょうか？

石原： 広島大学様の場合は、[Town & Gown Office \(TGO\)](#) に東広島市から職員の方が出向されており、また、東広島市をあげて、学園都市として、大学を中心にまちづくりを推進しようとしている土台があることも大きいと思いました。したがって、本学の状況に照らし合わせながら、できる部分を見極めて取り入れていきたいと思っています。

羽田： やはり国立大学は国立大学の、私立大学は私立大学の役割があると思います。たとえば、愛知県の国立大学といえば名古屋大学ですが、本学が同じことをしても埋もれてしまいます。やはり差別化していくためには、国立大学とは明らかに違う役割を担うべきだと考える中で、本学の役割は地域貢献だと思っています。1912年に開校した名古屋電気学講習所、私立名古屋電気学校が本学のルーツ(表1)ですが、当時から「技術者の育成」を目的にしていたので、原点を踏襲しながら、愛知工業大学の特徴を出していきたいですね。大学として自分たちのブランド力を上げるためには、やはり明らかな違いをつくって我々の強みを活かせるところに集中し、社会につなげるというのが私立大学の存在意義ではないかと考えます。

- 愛知工業大学の沿革については、自動車でも有名な豊田市の地域特性にも影響を受けているところもあるのでしょうか？

羽田：元々は、「これから電気の時代を迎え、技術者が必要になるだろう」と予見して学校をつくったところが始まりになっていますし、ものづくりが発展している地域でもあるので、技術に長けた人材を輩出しているというのが特徴だと思いますね。

沿 革

1912年 (大正元年)	・名古屋電気学講習所創立 ・私立名古屋電気学校設立	「技術者の育成」を目的に 名古屋市で開校
1954年 (昭和29年)	・名古屋電気短期大学設立	
1959年 (昭和34年)	・名古屋電気大学設立 中部地方初の工科系私立大学	いち早く工業化社会の到来を予測し、エネルギー源として「電気」に着目 ⊕ 産業界の要請に応える
1960年 (昭和35年)	・愛知工業大学と改称 学部・学科の拡充	
1966年 (昭和41年)	・大学院の設置	

AIT 愛知工業大学

表 | 愛知工業大学 沿革 出所: 広島大学「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム」における発表スライド「ゼロカーボン社会の実現に向けて本学の果たす役割と取り組み」(羽田先生)

地域貢献できる人材育成：愛知工業大学のさまざまな取組

- 地域貢献できる人材育成という点では、具体的にどういう取組を進めておられるのか、卒業後の進路も含めて教えていただけますか？ また、フォーラムでお話を聞かせていただいたカーボンニュートラルに関する特別講義は一つの大きな柱かと感じましたが、この辺りもいかがでしょうか？

羽田：2022年11月に地域連携・SDGs推進本部 ゼロカーボン推進室が立ち上がり、2023年4月1日に「愛知工業大学ゼロカーボン宣言」及び「愛知工業大学カーボンニュートラルロードマップ」¹を策定したので、取組自体はまだ1年半ちょっとになります。人材育成に関して、まずは学生たちにカーボンニュートラルやゼロカーボン社会に関心をもってもらう必要があるだろうと考え、全15回のカーボンニュートラルに関する特別講義を企画しました。総合技術研究所教授の近藤 元博先生にコーディネートしていただきましたが、まずさまざまな分野の第一線の方に

¹ 愛知工業大学ゼロカーボン宣言・カーボンニュートラルロードマップ:

<https://www.ait.ac.jp/activities/sdgs/> 出所: 愛知工業大学ホームページ

来ていただいて、最先端の動向や現状をお話いただき、多角的な視点からカーボンニュートラルに関して学んでもらう機会をつくりたいと思いました。

図1 特別講義カーボンニュートラル
出所: 愛知工業大学ホームページ

実際に、行政の立場、企業の立場、大学の立場という産官学からそれぞれの先生にお越しいたきて、各テーマについて講義していただくことになりました(図1)。本来は各学部・学科に専門科目があった方がいいとは思いますが、大学は学部・学科は専門分野の教育課程を編成しており、すぐにそこまでは踏み込めません。したがって、私たちの狙いとしては、まずはこの特別講義を土台に、少しでも学生に関心をもってもらえれば、それまで何も意識せずにそれぞれの学部・学科で勉強をしていたのが、「あの講義で学んだカーボンニュートラルは、こういうことなんじゃないか」と、学生自ら専門と結びつけて考えてくれるのではないかと、そんな流れをつくりたいと思い展開しているところです。

この特別講義は、これまで、学内のシステムでアナウンスしただけでした。これだけ著名な講師の方々に本学まで来ていただくのに、学生が20~30人しか集まらなかったらどうしようかと、正直なところ不安でした。ところが、蓋を開けたら初年次100名の募集に対して、165名の履修希望があり、本学の学生の関心の高さに良い意味で驚きましたし、それを知る良いきっかけにもなりました。また、抽選の上、履修者を最終的に120名に絞りましたが、集まった学生には、外部から講師にお越しいたいでいる特別講義であること、また出席を重視することを強調して伝え、最初に出席の意思確認をしっかりと行いました。毎回の講義の最後には、「①講義を受けての自分自身が考えたこと・感じたこと」、「②講義を受けて愛知工業大学として取り組めること」の2点を書いたリアクションペーパーを提出してもらっています。本講義は全学年・全学部公開している(3学部7学科14専攻の学生が履修可)、先ほども申し上げましたが、それぞれの専門性におけるカーボンニュートラルについて少しでも意識してもらえればと思っています。

- カーボンニュートラルに関する特別講義は、一般教養になるのでしょうか?

羽田: そうです、一般教養科目になっています。全学科・全学年が受講できる形にしたかったので、意図的に基礎教育に配置しようということになりました。

他にも、工学部建築学科の卒業研究テーマとして、名古屋市に所在する自由ヶ丘キャンパスの講義室のZEB化に向け、その現状把握に取り組んでいます。ゼロカーボン推進室としては、できる限りキャンパスを実証の場として提供していきたいと考えているので、卒業研究としてまず一つ動いている形になります。

- 自由ヶ丘キャンパスの ZEB 化に向けた実証は、今後も継続されていく予定でしょうか？

羽田：これは今回が初の試みで、まだ先のことは決まっていないのですが、私たちの仕事は、「繋げること」に一つの役割があると思っていますので、私たちが全面的に出て行って、方針を示すというよりは、それぞれを繋げて、将来的に自発的な取組や活動のきっかけになればいいと思っています。このケースでも、講義室の ZEB 化を検討するにあたり、まず必要なことを建築学科の先生に相談したところ、建物の現状と課題の把握だろうということになり、先生の方から卒業研究として取り組むのはどうかと提案をいただき、進めることになりました。

- ありがとうございます。それぞれの状況や経緯についてよくわかりました。

石原：私たちの部署が SDGs という言葉を冠した「地域連携・SDGs 推進本部」ということもあり、学生たちの課外活動費審査に SDGs の取組には加点したり、学内の先生の個別研究への助成にあたり、SDGs に関連する分野であればプラスアルファの評価をするという形で周知を行ってきました。今後はカーボンニュートラルに特化した枠や取組についても同様の形を検討しています。SDGs に関しては、多くの学生が理解している状況になってきたので、次はカーボンニュートラルの意識づけといえますか、課外活動や先生方の研究でも意識していただけるよう取り組んでいきたいですね。次年度以降のカーボンニュートラルに関する特別講義は、まだ決まっていないのですが、たとえば学科の先生方の研究に特化した内容などに派生してもいいと思いますし、いろいろな形でカーボンニュートラルを広げていきたいと思っています。

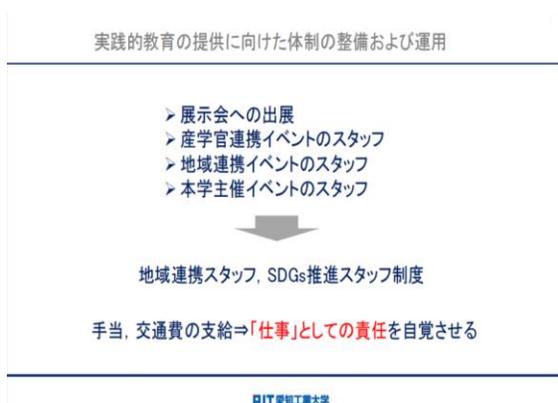


図 2 地域連携スタッフ・SDGs 推進スタッフ制度
出所：広島大学「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム」における発表スライド「ゼロカーボン社会の実現に向けて本学の果たす役割と取り組み」（羽田先生）

羽田：ゼロカーボン推進室が取り組んでいるイベントに学生を巻き込むということもやっています。たとえば、2023年9月に開催したキックオフセミナー「地域の未来を考える カーボンニュートラル社会の実現に向けて」²では、本学の経営学部の学生に司会をしてもらいました。司会の学生はカーボンニュートラルへの意識が芽生えますし、公の場でこうした役割に挑戦してもらうことへの教育効果も狙っています。学生たちをパートナーとして一緒に取り組んでいくような形をゼロカーボン推進室が繋いでいきたいというのが、今いるメンバーの共通認識でもあります。

また、[SDGs AICHI EXPO 2024](#)³でも学生たちにスタッフとして参加してもらいましたが、交通費

² キックオフセミナー「地域の未来を考える カーボンニュートラル社会の実現に向けて」

<https://platform-clover.net/activities/detail/338>

³ SDGs AICHI EXPO2024 にて羽田研究室が参加者投票で第5位受賞：

<https://www.ait.ac.jp/news/detail/0000307.php> 出所：愛知工業大学ホームページ

と日当を払って、仕事として責任をもって取り組んでもらうこともやっています。元々、「地域連携スタッフ」、「SDGs 推進スタッフ」という制度があって、現在 25~26 名が登録しています(図 2)。



他にも先生方の研究シーズなどの発表の場でもある環境展で、学生スタッフにも企業の方への説明対応をしてもらっています。こうしたことも実践的な人材育成の一つとして取り組んでいます(図 3)。

図 3 実践的教育の提供に向けた体制の整備および運用・各現場での学生の様子
出所: 広島大学「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム」における発表スライド
「ゼロカーボン社会の実現に向けて本学の果たす役割と取り組み」(羽田先生)

他には、ものづくりに挑戦する学生を応援する独自の制度「[学生チャレンジプロジェクト](#)」も行っています。つくる場所、材料費、コンテストや大会に参加するための資金をバックアップする制度で、1 プロジェクト 100 万円を上限とし、2023 年度実績は総額 1,740 万円でした。誰でも参加でき、自分でプロジェクトを立ち上げることもできます。後藤 泰之学長が、人材育成に強い想いがあり、学生のやる気を応援したいということで始まった制度です。

愛知工業大学の多岐にわたる地域連携事例

- 2021 年に貴学から地域ゼロカーボン WG 事務局に提出いただいた資料を拝見すると、地域連携に関しては、[豊田市](#)⁴、[みよし市](#)⁵等と包括連携協定を締結されていると思います。こちらの経緯や取組の進捗などについてお聞かせいただけますか？

井沢: 地域連携・SDGs 推進本部設置の経緯に係るのですが、本学は「教育」、「研究」、「地域貢献」が 3 つの義務でありながら、地域貢献・地域連携については、個々の先生の活動に留まり、取りまとめる部局もなく、組織的には動いていませんでした。私は当時総務課にいて、愛知県の他大学の動きも見えていましたので、このことを後藤学長に相談したところ、地域連携に対応する部署の設置を判断されました。1 年半くらいかけて今の地域連携・SDGs 推進本部の前身となる組織の案を考え、当時は「地域連携本部」という名称で、地域連携と同時に SDGs にも取り組みながら、大学として地域連携活動や SDGs に関する活動をコーディネートするところから始まりました。

⁴ 愛知工業大学と豊田市の包括連携協定(2013 年 3 月 29 日):

<http://www-test.ait.ac.jp/news/detail/0001008.html>

⁵ 愛知工業大学とみよし市の包括連携協定(2021 年 6 月 15 日):

<http://ns.ait.ac.jp/news/detail/0005996.html>

それ以前の2013年から豊田市とは包括連携協定を締結しておりましたが、具体の地域連携というよりは、包括的な協定内容でした。地域連携本部は人数も少なく兼務の職員ばかりでスタートしましたが、一応型はできたということで、2021年6月にみよし市と包括連携協定を締結しました。みよし市では、ゼロカーボン推進課が担当窓口なので、そこで講座をやったり、SDGsに関するイベントに対応したりし始めました。そうしているうちに2年が経過し、今後はさらにゼロカーボンにも取り組もうという流れの中で、どのように推進していくか再度学長に相談したところ、ゼロカーボンに関しても取組の推進を決断され、ゼロカーボン推進室が立ち上がりました。

その上で、ゼロカーボンも広く見ればSDGsの一つであると捉え、地域連携本部から「地域連携・SDGs推進本部」に改称し、その下にゼロカーボン推進室を設置しました(図4)。

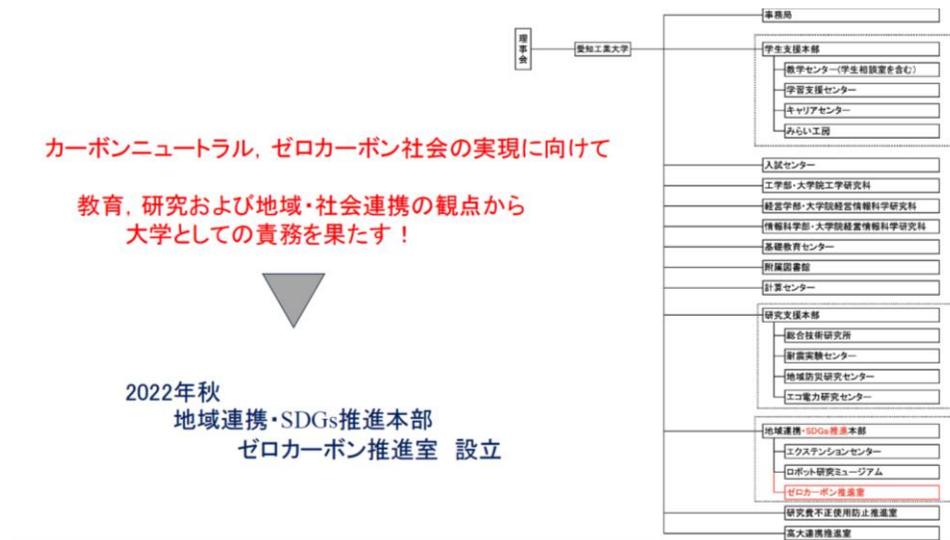


図4 地域連携・SDGs推進本部 組織体制図

出所: 広島大学「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム」における発表スライド「ゼロカーボン社会の実現に向けて本学の果たす役割と取り組み」(羽田先生)

ゼロカーボンは、愛知工業大学として「ここまでやったら終わり」という話ではないので、人材育成をやりながら、先日の広島大学様でのフォーラムのような機会にどんどん出かけて行って、本学の地域連携及びゼロカーボンの取組について広くアピールしていきたいと思っています。同時に、大学としては「教育」が第一優先なので、カーボンニュートラルに関する特別講義は非常に良かったと思います。兼務で取り組む教職員が多い中、羽田先生のリーダーシップのもとどんどん進めています。地元の方々に「愛知工業大学は一生懸命やっている」とお声がけいただくことも増えてきたので、方向性としては間違っていないのかなと手ごたえを感じています。

石原: 地域との連携は、単発のものも含めると結構いろいろと取組はあるのですが、近隣地域である、豊田市(包括協定)、瀬戸市(コンソーシアムせと)、みよし市(包括協定)、イオンモール長久手(産学連携に関する覚書)、名古屋市等を中心に地域と協力し、それぞれの要請に一つ一つ応えている状況です。

豊田市との取組としては、同市から公用車である超小型 BEV (電気自動車)「C+pod」を無償貸与していただき、「ハロー!カーボンニュートラルプロジェクト」という豊田市との取組の中で、学内横断的な研究として進めました。横断的な研究にすることで、普段あまり交流のない学科の先生方が一緒に課題に取り組む機会にもなると思います。

また、近藤先生が、みよし市のゼロカーボン推進協議会の委員長を務めており、その中で、みよし市在住の市民の方にも委員になってもらおうと募集をしたところ、本学の学生が自発的に参加してくれたこともありました。

羽田: 豊田市からは、昨年、賞味期限の近い災害用備蓄食品をどうするかとの相談を受けました。経営学部のクッキングサークル「Community Circle『Hill's』」と繋ぎ、彼らが防災食を使って美味しく食べられるレシピを考案してくれました。それを冊子化して、昨年度の SDGs AICHI EXPO に出展しました。

みよし市とは「愛工大おもしろ体験ツアー」という環境学習講座を毎年開催していて、その辺りのアレンジも全てこちらで対応しています。そういう意味では、市の方からも要請をいただきつつ、本学としても学内の知見や人材を生かして、また学生を含む次世代の育成にも資する形で、地域への貢献を積極的に進めていきたいと考えています。

また、イオンモール長久手とも包括連携協定を締結しているので、イオンモール店舗の方でアースデー等のイベントを開催する際は、子ども向けに何かしてほしいということで、地域連携・SDGs 推進本部主導の下、学生に出展してもらうということもやっています⁶。

カーボンニュートラルを組織的に展開するには?これからの大学の在り方

- ありがとうございます。多岐にわたるたくさんの取組をされていることがよくわかりました。話は変わりますが、最近の環境省との会議でも、大学の個々の先生方がどれだけ頑張っても、やはり個人の活動になっている限りは、継続的にゼロカーボンを推進していくのは難しいのではないかと話題になります。どうやったら大学組織全体として取り組んでいけるかという観点で、何かお取組やお考えがあれば教えていただけますか?

羽田: 井沢さんは研究支援本部と総合技術研究所の兼務ですし、私は総合技術研究所との兼務、石原さんも以前は研究支援本部との兼務でした。研究支援本部は産学官連携を担当する部署なので、我々3人に共通しているのは、やはり「繋げる」というところだと思います。実はまだこれからなのですが、ゼロカーボン推進室では、本学が所有する広大な、手付かずの森林の整備を学生たちと一緒に取り組みたいと考えています。ただ、これは私たちだけでは限界があるので、各学科の先生、学生を巻き込んでいかないと難しいと思っています。また、先生方はそれぞれ素晴らしい研究をしています

⁶ 2024年4月イオンモール長久手アースデーイベントに参加:

<https://www.ait.ac.jp/news/detail/0000225.php> 出所:愛知工業大学ホームページ

が、同じ学科だとしても、お互いにどんな研究をしているのか必ずしも把握されていないと思います。そう考えると、ゼロカーボン推進室のような部署がゼロカーボンをキーワードにして、まずは研究室、学生、職員の方々を繋げるような仕掛けをどんどん打ち出していくのが大事だと思います。

ゼロカーボンに関する特別講義でも、なぜ定員 100 名の枠に対して、最終的に 120 名にしたかという、教職員の方にも参加してほしいからなんです。実際に、「有名な先生方がいらっしゃるんだよね」と関心を持って参加してくれた方もいましたし、「行政の方の話に興味があった」と言って参加してくれた方もいました。本学のホームページにゼロカーボンに関する取組を公開しているのは、学外だけでなく、学内の教職員、学生にも知ってもらうこと、関心を持っている方に繋がっていけば、という狙いがあります。

カーボンニュートラルに関する社会人向けリカレント講座について

- 同じく 2021 年に提出いただいた資料に、「その他の特徴的な取組」として、「あいち環境塾」への教員派遣(アドバイザー講師)をされているとありましたが、こちらについても教えていただけますか？

羽田: 「あいち環境塾」⁷は愛知県の主催で 2008 年から開催しているコースで、名古屋産業科学研究所が事業委託を受けて開催しています。社会人を対象に、様々な大学等から各分野の専門家が講師として講義を行い、講師との車座のディスカッション、4~5 人のチームに分かれたワークショップを行います。コースの最終盤で、愛知県副知事や環境局に向けて、20 年後の愛知の未来社会へ向けて、環境に関する政策やビジネスモデルを提言します。このプログラムコーディネーターを本学の近藤先生が担当されていて、プログラム構成等を行っています。他にも本学から、私と経営学部の若手教員二名がアドバイザー講師として参加しています。

- 対象の社会人は企業の方が多いのでしょうか？

羽田: そうですね、企業の方がメインです。あいち環境塾からテーマが与えられるのですが、これまでの例では、生物多様性や、DX・SX、廃棄物関連等でした。これらを社会人の方々にテーマとして提供し、20 年後のあるべき姿・目指すべき姿を考え、現状とのギャップを埋めるためにはどうすればいいかという感じでのワークショップになります。

- 他にも、愛知工業大学の方で、社会人向けの公開セミナーやリカレント講座なども行っているのでしょうか？

羽田: ゼロカーボン推進室としては、「AIT カーボンニュートラル地域貢献セミナー」を昨年度(2023 年度)と今年度(2024 年度)に2回開催しました。昨年度は、「地域社会における取り組み状況と未来に向けて」と題して、それぞれ本学の研究室の先生方に講義をしてもらいました。地域の

⁷ 2024 年度あいち環境塾: <https://www.nisri.jp/chc/docs/kankyojuku2024-1.pdf>

2024 年度基礎コース:カリキュラム: <https://www.nisri.jp/chc/docs/kankyojuku2024-2.pdf>

方々にまずはカーボンニュートラルについて知っていただく、考えていただくきっかけ作りとして、このようなテーマ設定にしました。今年度は、「地域に貢献する技術と生活環境の向上と未来に向けて」というテーマで、愛知工業大学ならではのやや技術的な内容にしました。講師はテーマにふさわしい本学の先生方をこちらで選びました。研究支援本部の井沢さん、そして石原さんが以前に研究支援本部にいた関係で先生方と距離が近いですし、皆さん協力的で、講師依頼についても好意的に引き受けてくださいました。来年度の構成についてもいろいろなアイデアがあり、現在検討中です。

あとは、地域連携・SDGs 推進本部 エクステンションセンターが開催している市民向けの「AIT カレッジ講座⁸」があります。

2049 年にゼロカーボンを目指す：愛知工業大学ゼロカーボン宣言とカーボンニュートラルロードマップの取り組み状況

- 最後に、冒頭にも少しお話が出ましたが、2023 年 4 月に公開された「愛知工業大学ゼロカーボン宣言」（大学創立 90 周年となる 2049 年にゼロカーボン）に向けた計画（カーボンニュートラルロードマップ）、これまでの取組と成果について教えてください。

羽田： カーボンニュートラルロードマップという全体の方向性に対して、2023 年～2029 年の取組計画を示したのが、以下の表になります（表 2）。

本学ロードマップStep1 (2023～2029)の取り組み状況

ゼロカーボンキャンパス実現	ゼロカーボン人材育成	ゼロカーボン地域連携型先端型研究の促進	社会・地域貢献活動
<ul style="list-style-type: none"> ◆学内への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・学内に専用掲示板を設置 ・HP、SNSの活用 ・環境配慮型自販機の導入 ◆省エネ活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・建物ごとのエネルギー使用量の見える化 ・エアコンの使用方法をルール化 ・キャンパス閉鎖期間の設定 ◆廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・学内ゴミ箱付近にポスター掲示 ◆資源管理への取り組み促進 <ul style="list-style-type: none"> ・紙再生機の活用 ◆建物のZEB化に向けた実証実験 <ul style="list-style-type: none"> ・建築学科学学生との共同プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ◆カーボンニュートラルに関する正課科目の開設 ◆中学生、高校生体験型プログラム <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした夏休み環境学習講座 ・ものづくりをテーマとした子供向け講座 ・女子中学生を対象とした本学見学ツアー ◆学生チャレンジプロジェクトの充実 ◆地域貢献セミナー ◆市民公開講座 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学内研究状況に関する調査 ◆ZC社会に関連する研究分野の整理及び方向性の検討 ◆学内研究と協定自治体との連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ・自治体からの依頼による古民家の建築調査 ・防災食の商品開発 ・豊田市農家との自動草刈り機の開発 ◆その他協定先との事業 <ul style="list-style-type: none"> （イオンモール長久手）情報科学部学生が制作したゲームの体験会 ◆学内分野横断研究のプロジェクト化 ◆本研究成果の社会実装に向けた支援体制の構築（予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域貢献セミナー ◆市民公開講座 ◆相談窓口の設置 ◆自治体との協定 <ul style="list-style-type: none"> （豊田内） <ul style="list-style-type: none"> ・市長、市長懇談会 ・小学生向け防災教室 ・社会人向け講座 （瀬戸内） <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸市からの交付金による老人学の瀬戸市関係の取組を支援 （みよし市） <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした夏休み環境学習講座 ・ものづくりをテーマとした子供向け講座 ・女子中学生を対象とした入学生見学ツアー ◆外部組織への参画 <ul style="list-style-type: none"> ・みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会 ・コンソーシアムせと ・豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム ・大学等コアリオン ・あいちゼロカーボン推進協議会

AIT 愛知工業大学

表 2 ロードマップ Step1 (2023～2029) 取り組み状況

出所：広島大学「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム」における発表スライド「ゼロカーボン社会の実現に向けて本学の果たす役割と取り組み」（羽田先生）

⁸ 2024 年度秋季 AIT カレッジ講座：https://www.ait.ac.jp/assets/docs/activities/ext-center/ext-center_public-courses_apply2024autumn.pdf

2025 年度春季 AIT カレッジ講座：https://www.ait.ac.jp/assets/docs/activities/ext-center/ext-center_public-courses_apply2025spring.pdf

先ほども申し上げましたが、ゼロカーボン宣言からまだ1年半少ししか経っていないので、全て成果が出ているわけではないのですが、計画に沿って取組を進めています。

石原：一年目に現状把握をするにあたり、今までの計測が大まかな部分があって、詳細がわからないことに気づきました。そこで予算をとって新しい計測器を増設するなど、スタートラインの現状把握で少し躓いたこともありました。どの Scope までを含めるかという点も検討中なので、そういう意味でも広島大学様の対応は非常に勉強になりました。

羽田：本学も来年度、広島大学様等を参考にして、統合報告書を作成すべく準備しています。本学は工業大学なので、工業大学としての本分を維持しつつ進めていきたいと思っています。

- 統合報告書の公開を楽しみにしています。今日はインタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

インタビューを終えて



愛知工業大学 みらい工房



愛知工業大学 ロボット研究ミュージアム

インタビュー終了後、次世代型の電力供給システムを開発するエコ電力研究センターや、みらい工房、ロボット研究ミュージアムなど、大学の施設を見せてもらいました。

みらい工房は、学生の創作活動をサポートする"ものづくり空間"で、手工具から大型工作機まで多彩に揃っており、技術指導員のアドバイスを受けながら、学生・教職員であれば誰でも自由に使うことができます。また、ロボット研究ミュージアムは、学内の各所に分散していた、モビリティ、レスキュー、AI などの様々なロボットの研究を行っている研究室を一か所に集約し、オープンな環境で研究を行うことにより、研究室間の相互連携を高め、研究の促進を図っているとのこと。「鉄人 28 号」(大型ヒューマノイド二足歩行ロボット)や、4 足から 2 足歩行に進化するスヌーピー型ロボットなど、これらをつかった学生さんや先生方のワクワクが伝わってくるようで、こちらも楽しく見学させていただきました。また、インタビューでは、羽田先生、井沢さん、石原さんが、それぞれ「繋げる」という単語を何度もおっしゃっていたことが印象的でした。



スヌーピー型ロボットなど、様々なコラボロボットの展示



超小型 EV